

Title	看護職に求められる情報活用能力と教育の現状と課題		
Author(s)	有馬,志津子		
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2006, 7, p. 40-41		
Version Type	VoR		
URL	https://doi.org/10.18910/70228		
rights			
Note			

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

看護職に求められる情報活用能力と教育の現状と課題

有馬 志津子(大学院医学系研究科 保健学専攻)

1.看護職に対する時代の要請と教育

医療の高度化、氾濫する健康情報、患者や住民の ヘルスニーズの多様化に伴い、看護教育機関に対し、 看護実践能力(患者の状況を適格に把握・分析し、 適切な看護を実践できる能力)を備えた看護職の人 材育成が求められています。そのため人権を尊重し 人々の価値観や習慣、信念に配慮したケアを提供できるよう、ケアへのアクセスの根底である人権および公平、公正、連帯やプライバシーと秘密保持の考え方、情報収集、分析、伝達できる能力の育成は重要な課題です。

2.看護学生への情報活用基礎の授業目的、内容と方法

当専攻では情報活用能力の育成に向けて、1年次に 情報活用基礎、2年次に看護情報学で基礎能力を学び、 その後専門科目や臨地実習、特別研究で応用させて いきます。本授業はその基本授業に位置します。詳 細は下記のとおりです。

目 的:情報の収集・整理・分析・伝達に関する 基本的な技術を習得する

対 象:看護学1年生80名 教育者:教員4名とTA4名

評価方法:提出された課題に対し、一定の評価基準

に沿って教員が評価する

学習目標	内容・方法	媒体	授業時間	
ネットワークマナー	・ネットワークマナーについての講義とレポート作成	パソコン	30 分	
の重要性を理解でき				
ప				
日本語入力ができる	・文章作成ソフトの講義と演習	パソコン	60 分	
E-mail ができる	・電子メールソフトの講義と自己紹介とネチケットの	パソコン	60 分	
	レポート課題を教員にメールで送付			
internet を利用して	・情報検索方法に関する講義・個別に与えられた医療	パソコン	90 分	
必要な情報が検索で	や看護に関するテーマについて情報収集			
きる				
データを集計しグラ	・表計算ソフトの講義と演習	パソコン	180 分	
フ化できる				
HP を作成できる	・ホームページ作成ソフトの講義と演習	パソコン	270 分	
プレゼンテーション	・図形描画ソフトの講義と演習・プレゼンテーション	パソコン	660 分	
用資料を作成できる	ソフトの講義と演習	TA が作		
	・TA によるプレゼンテーション	成したプ		
	・看護に関する与えられたテーマに関する情報を分析	レゼンテ		
	し、図やグラフを使い、プレゼンテーション用の資	ーション		
	料を作成して提出			
		,		

3.授業による看護学生の情報活用能力の向上

授業前後の比較を行ってはいませんが、授業後の 課題評価では、ほとんどの学生が情報収集・分析・ 伝達に関する方法論は習得していると考えられます。 これは教員HPに授業用HPを作成しどこからでもア クセスできることにより教育内容や課題を十分理解 できるようなシステムを組んでいること、講義と演 習を組み合わせる授業方法、個別能力の差に対応で きるような教育者の配置、授業HPに学生HPへのリ ンクがあることから他学生が学生HPにはられた課 題を閲覧できることによるグループ学習効果が考え られます。しかし、与えられたテーマに関する医学 的な根拠のある情報収集、出典の明記、グラフ作成 にあたりデータ所在の明記、グラフの選び方、タイ トルや値の表示、プレゼンテーション資料(10枚以 内)での流れ(起承転結)やまとめなどに関する能 力には不十分さが感じられます。またHPからそのま まコピーして資料を作成し、内容について何も吟味 していない、課題の提出はあったが授業の出席点は つけていないので作成者の不明確など、教育内容や 方法、評価に課題が残されています。

4.今後の看護職の情報活用能力の育成にむけて

文部科学省では情報化への対応として情報活用能 力の育成を重要とし、小中高の総合学習でPCやイン ターネットの活用、中高教育において情報に関する 教科の必修、授業におけるプレゼンテーションやイ ンターネット検索の利用などを推進しています。看 護学生に聞いたところ、高校までにインターネット、 表計算、プレゼンテーション資料作成の経験者も多 かったです。今後大学における看護学生への情報活 用能力の育成には、情報収集・分析・伝達の方法論 も必要ですが、より看護の現場に即した事例設定や テーマ選択、グループ学習、学生相互評価などを取 り入れ教育効果を検討することが必要だと思います。 さらに、現任看護職の多くは十分な教育をうけてい ないまま、電子カルテ化、患者情報管理、病院情報 システム化などに対応している現状です。また国外 のような看護職への遠隔地教育のシステムづくりは わが国では遅れています。現任看護職への情報活用 能力の向上への支援や社会人への教育支援も大学と しての果すべき役割であると考えます。